潮見小校長室だより

151周年 2026.1.26 №57
松山市立潮見小学校
校長　池川　仁

子どもの発想を伸ばすこと

２年生が国語科で、「せかいじゅうの海が」の詩を学習しました。「せかいじゅうの海が一つの海になっちゃえば　どんなに大きな海だろな…」という詩で、マザーグースの歌を水谷まさるが翻訳したものです。詩のリズムを楽しみながら音読することが学習の大きなねらいですが、この詩の型を使って、新たな詩を「ソウゾウ（創造・想像）する」ことにも子どもたちは取り組みました。その中で出来上がったものの一つが、右の作品。子どもの夢が詰まっています。

世界中の棒付きキャンディーが
一つの棒付きキャンディーになっちゃえば
どんなに大きな　棒付きキャンディーだろな

世界中のクレープが
一つのクレープになっちゃえば
どんなに大きなクレープだろな

世界中の板チョコが
一つの板チョコになっちゃえば
どんなに大きな板チョコだろな

世界中の子どもが
一人の子どもになっちゃえば
どんなに大きな子どもだろな

大きな子どもが
大きな板チョコを食べて
大きなクレープにイチゴをのせて食べて
大きな棒付きキャンディーを食べたら
どんなにおいしそうなおかしだろな

大きなお菓子が出来上がったらどうなるのかと思えば、結局大きな子どもが独り占めする、というのが面白いですね。**授業の中で自由に考える雰囲気がある**からこそ、こういった作品が生まれるのだと思います。

調理実習で生きる力を

６年生が、じゃがいもの調理実習を行い、粉ふきいもを上手に作ることができました。じゃがいもを調理する際には、しっかり芽を取らなければなりません。皮も丁寧にむく必要があります。家庭ではピーラーが主流だと思いますが、家庭科では包丁を使って芽を取ったり皮をむいたりしました。包丁を使う意義は、危険なものだからこそ十分安全に配慮して使うことの大切さを学ぶことだと思います。また、包丁を安全に使えれば、自信をもって自分で調理をすることができます。**「自分で食事を作る力」は「生きる力」**につながるはずです。

じゃがいもの皮をむく際には、指導者がしっかり確認をしたり、タブレット端末を使って自分で振り返ったりすることができるようにしました。こういったことができるのは、潮見小学校で栄養教諭が配置されているからです。食育に関しての専門性が授業に生かされています。子どもたちにとって恵まれた環境で調理実習ができているのは、大変ありがたいことだと思います。

家庭科で身に付けたことを家庭で実践すれば、さらに調理に対する興味・関心が高まるはずです。安全面には気を付けなければなりません、子どもたちには、家庭でも調理の体験を積んでほしいと思います。ご協力をお願いいたします。